



↑毎回活動に参加してくれる島前高校生も増えてきて心強い。もとは段々畑だっただけに急斜面の多い竹林で、竹をかついで軽々と登り下りする姿がたくましい。

↓山に棲み森を育てる微生物は、竹を粉碎したチップを食べて繁殖します



←竹チップを使って畑の微生物を元気にする、無農薬・無肥料の農法が県内でも広がってきています。ちんちくりんメンバーもそれぞれの田畑で実験中です



■竹が海を荒らす!?

ちんちくりんの信条は、「山と海のつながりを忘れない」と。山は川を通じて海とつながり、栄養を海に供給しています。逆に、山が荒れると海も荒れます。竹や針葉樹は浅い地表に根を伸ばすため、それらが間伐されず放置されると大雨の時に土砂崩れがおきやすくなります。流入した土砂が日照不足につながって海の生態系を狂わせ、磯焼けを引き起こしているという説もあります。

また、竹が増殖すると光を遮

り、他の植物の成長を止めてしまいます。竹は鳥が巣を作りにくいので、竹ばかりの山になると鳥も減ってしまうでしょう。「竹林を持続的に手入れしていくことが山の自然環境を保ち、山と海との良い関係につながります。難しく考えなくても、春に美味しく筍をいただくことも活動の一部だと思います」

(福田さん)

■ちんちくりん公園を作ろう!

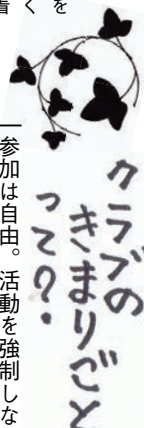
間伐するだけでは活かしたことになるかもしれません。伐った竹を資源として何を生み出すか?ちんちくりんが始めた新たな挑戦は、竹のある空間づくりです。竹製の階段やベンチ。楽器や遊具。竹を敷き詰めたら快適なくつろぎ場になるかも?等々、構想(妄想?)は膨らむばかり。

子どもも大人も地元民も観光客も気軽に竹に親しめる、そんな公園が理想です。実現まで長い道のりですが、従来通り、地道な活動を続ける意欲満々のちんちくりん。今後の経過は広報紙上でお知らせしていきますのでお楽しみに!

★竹林の七意見人

竹とおつきあいを考えると、実に長く日々の暮らしに密着したものでした。おにぎりは絶対竹皮に包んでいたし、お弁当箱は竹籠にこだわっている。実家には孫の手という名の背なかきがあった。春にはタケノコを炊くのが年中行事。お正月は松とセツトで竹を飾り、七夕には幼稚園で笹の葉さらさらと子どもが歌う。庭の掃除は竹ぼうき。なんだろう?竹の道具が大好き。ざる、バスケット、お箸、椅子もい。

海土に暮らして、竹との関わりが深くなりました。こんな素晴らしい素材はなかなかありません。(新谷真知子)



参加は自由。活動を強制しないことが決まりことです。毎月、月末の最終土曜日13時から始めています。ご都合の良い時間だけの参加も歓迎します。



*この見開きページは「ちんちくりんクラブ」の以下のメンバーによって制作されました。
宮崎雅也 新谷雅弘
宮崎美穂 新谷真知子
小坂真里栄 中根健太
渡辺祐一郎



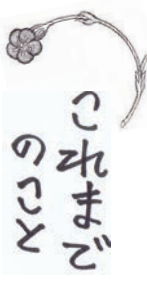
↑ちんちくりん公園妄想図。いつ来ても花がある優しい公園。

竹を伐って、使って、お化けが出そうな竹やぶを、思わず深呼吸したくなるような場所にしたい。そのうち、かぐや姫に会えるかも。



ちんちくりん
クラブって
なに？

竹を伐りまくる！だけじゃない。竹林の手入れと再生、そして活用。竹を上手に使うて暮らしをもっと楽しくしたい、そんな有志の集まりです。



ちんちくりんは今から9年前、海士町のまちづくりを考えるチームから生まれました。

島の資源が循環する仕組みを話し合い、放置された竹で炭焼きをしたことがきっかけでした。クラブ名の鎮竹林(ちんちくりん)も、最初のメンバー3名



ちんちくりんでは月に1回、菱浦港近くの炭焼き小屋周辺で、竹の伐採と竹チップ作り(※コラム参照)をしています。海士町の竹は、孟宗竹、淡竹、真竹が代表格で、ちんちくりん活動エリアの竹林は主に淡竹です。現代では放置竹林が問題とな

↓伐ると人が繋がる。世代を超え、地域を越えて



↓竹チップをメンバーが持ち帰り、それぞれ活用中



↓地面から1m残して、根から枯れるのを待ちます



っています。もともと竹は島の暮らしに欠かせない存在で、食用以外にも幅広い用途で使われていました。洗濯物を干す竿竹や雨どいはこちら、土壁の芯にする竹組み、牧畑の柵、鯉のぼりの柱、墓地の花立て、そして秋にはハデの材料としても。しぜんむら、福田貴之さん

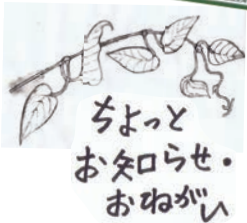
「人がよく使っていたからこそ生活圏に竹林が残っています。日頃からこまめに刈っていたんですね。生活の変化で昔のよう竹を使わなくなりましたが、放置せずに現代に合った竹の活用方法を考えたいですね」(隠岐)

へんにあります



炭焼き小屋は菱浦のマリンポートホテル前の高台にあります。小屋へ行くにはホテルとレインボービーチの反対側の細く急な上り坂を70mほど登ってください。駐車もできます。

←活動通信第1号。2010年1月



★竹チップがたくさんできたら袋に詰めて炭焼き小屋の前に置いておくことがあります。興味ある方はご自由にお試しください。残念ながら置いていないときは、次回の活動日へのご参加をお待ちしております★ご参加には参加費は不要ですが、ご自身の飲み物、軍手やノコギリなどをお持ちいただくとベースよく活動ができます★雨天時は隠岐開発総合センターにて情報交換をしています★炭焼き小屋周辺はちんちくりんの活動とは別に、海士町が整備した部分もあります。



↑すっきりしてきて、菱浦港が一望できるようになりました